伊勢湾海交センターの整備完了
14年度 航路標識整備計画

航路標識整備事業の平成十四年度実施計画が三月二十九日決まった。事業費五五億五二〇〇万円で新設二九カ所、改良改修六三〇件を整備する。

【伊勢湾海上交通センター新設】八億九〇〇〇万円

伊勢湾への唯一の出入り口である伊良湖水道は航路幅が狭く、船舶がふくそうしている。船舶交通の安全と運航効率の向上を図るため、国内七番目の海交センターの整備を進め、十四年度にレーダー処理装置などのシステム整備を完了、十五年度から運用開始の予定。

【光波標識新設】三億五九〇〇万円

港湾標識二五基、障害標識四基の計二九基。

【改良改修】四三億三二〇〇万円

◇光波標識

❶大都市圏の国際港湾の機能強化に役立てるため北部九州、来島海峡で集中的な高機能化の整備。

❷東京湾中ノ瀬航路への整備を目指し、レーザー光利用の航路表示システムの開発。

❸太陽光発電などクリーンエネルギー化の整備。

◇電波標識

❶IT技術による効果的な情報提供とリアルタイムの航行管制を実現するため、東京湾でのAIS（自動船舶識別システム）を活用した次世代型航行支援システム整備のための実施設計。

❷備讃瀬戸海交センターのレーダー監視エリアの東側海域への拡大のための調査設計。

【その他】

全国の主要灯台などで提供している局地的な気象・海象状況の船舶気象通報を充実するとともに、無線放送、テレホンサービスに加え、携帯電話やインターネットで提供するシステムの整備。

こんにちは

首席監察官

尾崎（おざき） 誠一（せいいち）氏

「第一線に出ていく」
冷静に先を読む人と期待大

大幅に強化された監察体制の先頭に立つ。

「海上保安庁に対する国民の期待は大きくなった。一方、現場では業務の質が変わってきている。密航・密輸、密漁の組織化、テロや海賊行為……。現場の人たちはストレスを感じている」と分析する。

「一人ひとりが安心して、しかも自信と誇りを持って効率的に働ける職場環境をつくることが私たちの務め。業務・紀律改善委員会では、組織・人員配置の見直しを含めて検討していただいている」。

鹿児島県阿久根市に生まれ、高校まで海を見つめ、海に憧れて育った。南極観測船「宗谷」の活躍が海保大志望のきっかけ。「社会的な貢献ができる仕事だ」と実感できたのは、初めて配属された名瀬保安部巡視船「あまみ」で海難救助して感謝された時だったという。

室蘭保安部巡視船「えとも」業務管理官の時に北海道南西沖地震に遭遇。余震が続く中、海に流れる家屋をぬうようにして航行、避難者を収容したことは忘れられない。首席船舶工務官として建造に力をそそいだ災害対応型巡視船「いず」のROV（自航式水中カメラ）が沈没不審船調査で威力を発揮した。

八管本部次長時代には監察主幹を経験、前任の総務部参事官では統合保安部構想を推進した。

「冷静で先を読む力がある人。きっと成果をあげてくれる」と周囲の期待は大きい。「監察官が第一線に行って意見交換することが大切。私も出ていきます」と言い切った。

現在の最大の趣味は、夫人と一緒にするテニス。「妻の方が上手で、いつも教わっている」と語るのはおノロケ？

長官表彰

3月26日付

◇業務成果

大阪湾海交センター整備課

旅客船「エメラルドウイング」海難救助

四管本部警備課
名古屋保安部

中国貨物船QING CHUAN－5中国人集団密航事件

五管本部国際刑事課

SOGに総合訓練
潜水セミナー 現地大きく報道

マニラ

フィリピンへの特殊海難救助技術移転セミナーが、海上保安庁から国際協力事業団（JICA）短期専門家として派遣された特救隊・蒲田福司隊長と山本亮（塩釜「むろと」）、加治屋文隆（徳山「くろかみ」）両潜水士により一月十五日から三月十四日まで行われた。

セミナーは、全国からマニラに集まったフィリピンコーストガードのスペシャル・オペレーション・グループ（SOG）隊員十人に対する約六週間の講義・潜水訓練と、セブとダバオでの一週間程度の短期セミナー。二月二十八日にはマニラ湾で巡視船、ヘリコプターを使い総合訓練も行った。総合訓練は、五年目となる潜水セミナーでは初めてとあって、現地の新聞、テレビでも大きく報じられた。

訓練自体は厳しいものだったが、派遣者と訓練生との交流により相互の理解を深めるのに役立った。

（特救隊・蒲田福司）

SOG訓練のメンバー

入港式

鹿島・よど 4月4日、鹿島港中央船だまり。隅田川造船㈱で建造、3月29日就役。

長崎・こうばい 3月29日、巡視船艇基地岸壁。午前中に長崎造船㈱岸壁で引渡式・就役。

佐世保・むらかぜ、あいかぜ 4月4日、巡視艇基地。北九州市若松区のニッスイマリン工業㈱で建造、3月29日就役。

舞鶴・まいひかり 3月26日、定係岸壁。灯台見回り船初の白色塗装。

引渡式

五管 3月29日、20メートル型巡視艇5隻。「むろかぜ」（田辺）「あしび」（日和佐）「すいれん」（三池）「ひごかぜ」（三角）＝高砂市・石原造船所▽「ふよう」（福岡）＝堺市・信貴造船所

帰港式

名瀬・あまみ 3月30日、名瀬港。関係者約60人が参加、乗組員26人をねぎらう。海保協会奄美支部長の平田隆義名瀬市長が「不審船事件の活躍に全島民を代表して敬意を表したい」とあいさつ。久留主眞佐夫船長と若佐守男業官にミス大島紬2人から花束贈呈。式後、船内公開。久留主船長らが被弾した船橋部分や操舵室内などを当時の状況を交え説明。

修復を終え帰港した「あまみ」の船内を見学

海洋概況

（海洋速報13号から）

黒潮流域＝本流は都井岬で離岸し、足摺岬から潮岬では接岸傾向で流れ、御前埼南西方の冷水渦の南側から三宅島付近を通って犬吠埼東方まで北上した後、東方に流れている。

親潮及び混合水域＝表面水温は0～14℃を示し南方で1℃昇温、沿岸域では1～2℃昇温している。

日本海＝表面水温は0～15℃を示し南方で1℃昇温、沿岸域では入道埼以南で1℃昇温、入道埼以北で2℃昇温している。

冷水渦＝御前埼南西方に見られる。

暖水渦＝塩屋埼東北東方、金華山東方、魹ヶ埼北東方に見られる。

海氷概況＝4月2日の流氷は国後島、択捉島の一部に接岸しているほかは、北緯45度付近まで後退している。

海上保安庁監修　㈶日本水路協会調整
詳細情報は同協会海洋情報室から入手できます。電話　03-3543-0770

研修・講習

一管 3月14～15日、行政情報システム活用研修。管内事務所の21人が受講。行政情報システムの整備完了に伴うリテラシー向上が目的。基礎からセキュリティとウイルス対策、機器管理要領、各種申請手続きまで。

宿毛 3月22日、健康管理講習会。海陸職員・家族22人が聴講。高知県立幡多けんみん病院・深谷眞彦副院長が講師。循環器系疾患の予防・対策がテーマ。生活習慣のコントロールの大切さを学ぶ。航標職員も参加。

東京湾～京浜港
巡視船艇のための入港のしおり
HP形式…CDで配布

横浜保安部航行安全課は「巡視船艇のための東京湾～京浜港（横浜、川崎区）入港のしおり」を作成した。ホームページ形式になっており、CDにして全管区・部署にパソコン用に配布する。

この海域は船舶交通が世界で一番集中し、船舶の安全航行を確保するための複雑なルールが定められている。「しおり」は海域の状況、各種法令、行政指導に基づくルールをビジュアルに分かりやすくまとめられており、派遣される巡視船艇の事故防止と業務参考になる。

航安課の榎園英樹予備員が川崎保安署の和田聡明港務係長の協力で約三カ月かけて資料を整理、現場に足を運んで作り上げた。

常に最新情報に更新し、現場の意見を反映させて、一般の海事関係者向け資料にし、今後作られる横浜保安部のホームページにも掲載する予定。（横浜）

……イブカメラが設置され港内や付近海岸の画像を提供する。

●モナコで臨時国際水路会議

国際水路会議は水路業務における政府間の協力など……

輸出入・港湾関連手続きのシングルウィンドウ化
国交省が意見募集

国土交通省は、輸出入・港湾関連手続きのワンストップサービス（シングルウィンドウ化）の推進に当たり、港湾EDIシステムなどでの「対象手続き」と「入力項目一覧」について利用者からのパブリックコメントを募集している。

住所、氏名、職業（会社名または所属団体など）、電話番号を明記して送付のこと。

送付先　Eメール（single-window@mlit.go.jp）またはFAX（03－5253－1658）、郵送（〒100－8918　東京都千代田区霞が関2－1－3　国土交通省港湾局環境・技術課）

締め切り　4月30日(火)必着。

救難所設立

金沢、小松美川 3月19日、石川県西部水救会臨時総会で設立。既設の羽咋滝港マリーナ、加賀両救難所と合わせて4カ所、会員数17団体となり、能登半島北西部から加賀市までの沿岸……

団体人事

航路標識協会

管理事業部長（同次長）　村上　昌人
＝4月1日付

業務第一部長（九管灯台部長）　奈良　豊勝
＝4月2日付

平成14年版発売中

K3 日本港湾港則集（その1）
海上保安庁監修　B5判　価格9,100円（税別）

K4 日本港湾港則集（その2）
海上保安庁監修　B5判　価格9,600円（税別）

お申込みは ㈶海上保安協会 普及部
〒104-0045 東京都中央区築地5-3-1 海上保安庁海洋情報部内
電話03（3542）3678
FAX03（3541）9085